



お客様にとっては たった一つのお人形 気持ちを込めて作ります

人形作家 金子 友紀 さん

「ひな人形」といえば、赤や青など古典的な着物を思い浮かべますが、「柔らかいピンク色など、洋服感覚の衣装や少し茶色の髪なら、洋間に置いても違和感がなく、インテリアとして飾っていただけたらと思います」と、にこやかに微笑むのは、人形のまち・岩槻で人形作家「ゆうき」として活躍中の金子友紀さん。手ごろな値段のかわいらしい人形や、洋間にも似合う人形を発売し、若い世代の注目を集めています。

金子さんの実家は、木目込人形専門店。「自宅と工房が一緒だったので、幼い頃から自然と人形に触れてきましたが、父の後を継ぐという考えはありませんでした」

インテリア関係の仕事を退職後、人形づくりの下処理から手伝い始め、胴の原型づくりを手がけるようになりました。ある展示会で、女性の作家の作品

を見たことがきっかけとなり、本格的に人形づくりに取り組むようになったのです。父親は埼玉第一号認定の節句人形工芸士。金子さんの師匠でもあります。最初は金子さんの斬新なアイデアに反対していましたが、「伝統を大切にしながら、現代的な色彩感覚も取り入れ、身近で誰もが楽しめる人形づくり」を心がけている金子さんを、今は応援してくれているようです。

「人形の着物は毎年配色を替えているので、毎年買いに来られるお客様もいらっしゃいますし、こんな衣装がいいというご要望にもお応えしています」

手のひらに乗る小さなひな人形は、お節句の時期だけではなく、一年中飾っておけるので、百貨店などでも人気商品です。

岩槻には多くの人形店がありますが、ほとんどの店が後継者の問題を抱えているそうです。岩槻人形協同組合では、岩槻人形の技法や技術の研鑽、次世代への伝統技術の伝承と先人達の技法の習得を目的として、「岩槻人形研鑽会」を平成18年に発足させました。金子さんも参加し技術を学んできましたが、職人のほとんどは男性で、女性は4人ほどだそうです。

「小さい頃から知っている職人さんたちに、今教えていただいている段階です。年が離れているからか、かわいがってくださいます」

毎年6月に展示会があり、それに向けて京都へ生地の見付けに行くなど、これから仕事のピークを迎えます。

「私たちが作る人形は年間何百体もありますが、お客様にとってはたった一つのお人形です。気持ちを込めて作っています」

平成20年4月からは「さいたま観光大使」としてイベント等でも活躍中の金子さんは、「人形のまち・岩槻」のPRにも貢献しています。また、先日は目標にしていた伝統工芸士にも認定されました。

自身が作るひな人形と同様、金子さんの世界には新たな可能性が広がっているようです。

広告スペース

広告スペース

この情報誌の作製費用の一部を広告料収入でまかなっています。



平成21年3月1日発行

◎本誌へのご意見・ご感想は男女共生推進課まで。FAX、E-mail、ホームページでも受け付けています。

【編集・発行】さいたま市市民局生活文化部男女共生推進課 〒330-9588 さいたま市浦和区常盤 6-4-4
TEL.048-829-1231 FAX.048-829-1969 E-mail:danjo-kyosei@city.saitama.lg.jp

環境にやさしい再生紙を使用しています。